夕刊
磐城新聞
二月十五日發行
定價一ヶ月金[illegible]錢（郵税[illegible]）
廣告料金 普通欄一行金六拾錢 特別欄一行金九拾錢（五號十二字詰一行一回）
編輯印刷兼發行人 柏木[illegible]
發行所 磐城新聞合資會社
電話[illegible]
（日曜祭日翌日休刊）

軍縮會議に對する一考察 (3)

衆議院議員
海軍中將 八角三郎

然しながら之等裏面の動きは兎も角として、表面から米國が堂々と今の如く滿洲事變を以て九國條約の違反なりとし、偉大なる海軍力を日本に保有せしむることが支那の門戸閉鎖なりと獨斷し、條約により我國をして國防の安全を確保し得ざる程度の軍備を押しつけんとする態度を以て臨み來る以上は其結果知るべきのみである。故に米國は此の態度を改め眞に不脅威不侵略の軍縮の根本精神に立ち返り我國建國の眞精神と我國民の眞思想とを理解して眞に互讓の精神を示さば公正妥當なる軍縮案必ずや成るべく、然らずんば其結果は豫測に難からざる處である。而して此處に至りて世人は此軍縮會議の決裂の結果に甚大なる關心を有し、即ち（1）建艦競爭を惹起し、遂には財政的破綻を來すなきや（2）建艦競爭の結果は遂に戰爭を誘起するに至らずやと憂慮しつゝある如くである。然るに我輩の見解を以てすれば倫敦、華府兩條約廢棄せられ無條約の狀態となる場合或る程度の建艦は行はるべきも決して國力を蕩盡する程の軍備競爭は起らざるべきを信ずるものである。何となれば今日、米國の造艦能力と現に發表せられたる造艦計劃を以てして、殊に華府條約廢棄後主力艦の建造をもなし、飽迄五。五。三の比率を維持せんとするが如きは果して言說の如くしかく容易なるものありや、全艦種を通じて五。五。三比率を維持する事は、米國海軍卿が新聞紙上にて言明せる如く容易なるものであり得るや否や劣勢海軍國の建造につれ優秀海軍國が常にその優勢を保持することは、劣勢海軍が其の兵力を增す以上に困難と財力を伴ふものなることは計數の示すところである。米國は今日迄倫敦條約上の所定兵力量全部の建艦をなして居らない、之を完成するには彼の海軍卿の言の如く一九三九年以後となる。又條約廢棄せらるゝも尙二ヶ年の效力期間がある。此の間に於て我國が既定計劃を遂行すると共に眞に我國獨自獨得の方針による兵力整備の計劃を定め之に向つて進まば、軍備は相對的なる以上建艦競爭は我に非ずして彼自ら來り投ずるものである

磐城歌壇

新妻久滿夫選

『折にふれて』　鈴木光治

◎砂煙吹き捲く夜の人絕えて　街の燈遠くおぼろなるかも

○うがひする水シン〳〵と齒に泌みて　今日此頃の朝の冷さ

○降りしきる冷雨のやみしひそやかさ　獨り目覺めて物を想へり

○枕邊の花瓶の花ぞつゝましき　母の寢息のかそかなりけり

○荒れ庭園に少さき紫蘭の萠え出でゝ　春息づきの微笑ましけれ

○春淺み朝陽きらめく麥畑の　葉末に光る露のさやけさ

寸評　第一首『砂煙吹き捲く云々』は佳い歌である。下の句は仲々凄い技倆を示してゐる。末梢的なものに墮ち易いところを良くも摑んで『街の灯遠くおぼろなるかも』と大膽にやつてのけたものだと思ふ。二首、三首、四首は表面的なものになつてゐる。五首、六しゆは材料が多少盛り過ぎた憾があつて反つて弱いものとなつた。

冬日

磐女校友會誌かをりから

二年　海川はるよ

—朝—

障子を開けた。ひやりとする空氣が、未だ覺めきらぬ頭を一層はつきりさせた。東の空には、紅絹をしぼり出した樣な雲が、今將に昇らんとする太陽を待つてゐる

おゝ麗しの太陽！總ての物が、慈愛深い太陽の光に惠まれて小躍りしてゐる

私は背伸びしながら、天に向つて大きな呼吸をした

—晝—

勉强後の私は、ぼか〳〵と暖い緣側へ來て、まぶしい視線を柿の木に向けた

カラカラカラー。空虛な微かな樂音。茶色に枯れて蜘蛛の巣にからまつてゐる二三枚が風に飜つて、黑い節くれ立つた幹にあたつてゐる。あの瑞々しい靑い葉から、こんな姿に變つてしまつたのだ

風の吹く度にヒュー〳〵廻つてゐる

慘めな敗慘者を見る樣だ

—夜—

時計は十時を示し森閑として死の樣な夜

支那蕎麥屋の笛が、淋しさうに消えて行つた。黑い衣を着、爪を立てゝ惡魔が荒れ廻つてゐる。ヒューヒューーと無慈悲な聲を立てゝ樹立を苦しめ、樹々は悲鳴をあげながらもがき合つてゐる

月は冷たい光を萬物に投げて、惡魔の仕業を見詰めてゐる

潮聲硯靜抄帳

○課題吟　冬の聲

金子石城選

穗架飛ぶ芒の山や冬の聲　松堂

枯れ庭の石ひやゝかに冬の聲

炭の香や障子のゆる冬の聲

湖面のざわめきしろし冬の聲　芳月

波たゝむ石ひやゝかに冬の聲

たわ〳〵と落つ噴水や冬の聲　一來

夜の更けて枯木林に冬の聲　かくほ

いちはやくともれる窓や冬の聲　眞砂常

○

水うつやにうしく茶や冬の聲　石城

2月16日

△日蓮上人安房に生る（貞應元）△露國大革命起る（大正六）△禁酒法撤回案米上院を通過（昭和八）△北陸本線能生、筒石間に大地辷りあり鐵道線路不通となる△英露通商協定成る（同九）

ひとの印〳〵

○

冬のコートをぬいて歩く若い女も、ちらほら街に見えて、春——を思はせる

講談

山の怪秘

戶隱奇譚 (110)

丸山寛雄作　眞木浪書

モッコ渡し（二）

妙心は一息入れると、馬鹿彥を促して峠を下つた。下りにはなるが、これからが正銘の碓氷峠となるのだ靑々した針葉樹林の中を通る、斷崖の傍を過ぎる。岩淸水が自然の琴を搔き鳴らしてゐる。小川も跨げば危ない棧道も渡つて行く

林の中では郭公のなき聲が遠くから聞えたり、歩く直ぐ近くで起つたりする

『でかいことしたぞ』

突然、先に立つて行く馬鹿彥が例によつて大聲を張りあげた

『何んだね彥、また騷ぎ出して』

妙心はたしなめた。けれども馬鹿彥はにやにやしてゐるばかりである。馬鹿彥は時々氣分が單調になつたり、心に激動を感じたときは、この『でかいことしたぞ』の文句を張りあげる奇癖をもつて居る

有名な關所へ入る前に辨慶力餅の茶屋といふのが樹林を出たところにある

見れば狹い茶屋の中は相當な繁昌である。驛馬が呑んでゐるそのかげには馬子と飛脚の一圍が煙草を吸ひつけながら賑やかに談笑してゐる。裏手の見晴らし臺の方では關所を今通り越して來たらしい旅人が、力餅を頰ばりながら峠の高さに驚いてゐる

馬鹿彥は、この有樣を眺めると眞先に中へ入つて行く

『いらつしやいまし、お疲れでございませう』

赤いたすきをかけた女が愛想よく迎へる

妙心も、あとから暖簾をくゞつて奧へ通つた。床几といふ床几の上には振分荷物や行李などが澤山に置いてあつて、二人は腰をかける場所に迷つた。漸やく奧の見晴らしの座敷へ休むことが出來た

二人は間もなく女が運んで來た茶を呑み、名物の力餅を食べながら眼下の景色に見とれてゐたが、ふと茶屋の中で專らの評判になつてゐる話に耳を傾けた

それは、今日江戶出府中であつた信州戶隱山顯光寺の別當職靜觀僧都といふのが、同じ善光寺別當職と二人同道、江戶より歸つて來られるといふ話であつた

これを小耳に挿んだ妙心は思はず口許まで持つて行つた力餅の手を中途に休めて、何事か心に決する色があつた

妙心にとつて、それは痛快な仕返しであつた。妙心は天靈といつて大誓願の尼僧頭を勤めてゐた時分、岡庭典膳を男禁制の掟てきびしい大誓願の奧へ引入れて佛に仕へる身としてあられもない情痴の世界を作つたのが發覺し、遂に尼僧頭の役を免職された。それ以來妙心は自分の惡を棚へ乘せ只管大誓願のやり口に憤懣を洩らしてゐた。何か報復的な手段に出ねば納まらなかつたところだ

此の腹の虫を納めるには間接に自分を首にした、この別當職を亡きものにする事だ

年增妖尼の眼は、あやしく光つた。元來、尼僧のやうな生理的に不自然な獨身を立て通す種類の女には言行感情など平衡を缺く者の多いのは事實である。從つて憎惡の感情も根深く甚だしい。いまの妙心の場合がそれだつた、大誓願に追はれた腹いせである、徹底的にやるのかも知れない

妙心が、馬鹿彥と茶を呑み力餅を口へ運びながら、盗み聽いたところでは兩寺の別當職の行列は相當に大がゝりなものであるといふ

これは困つたと內心に思つた

大がゝりであるといふからには人數が多勢であらうそれでは斬り込むにも、馬鹿彥と二人だけの力では所詮至難である。しかし妙心は深く智謀を巡らしてゐる餘裕が無かつた。聞けばその行列がこの峠へ差かゝるのは、あと幾何もないとい

廣告

美味で評判の
イワキサロン
平町電三五二

天下一品マヅイ
素人料理おでん　榮ちゃん
花ノ里　新田町

株式賣買、債權取立
合資會社　三共商事
平町大町電三六〇

舊初賣御禮
初賣御禮トシテ
『マツダ眞空管』
ヲ特ニ割引販賣イタシマス
此際御買ひ求め下さい。
日東商會
平町二丁目　電話四二八番

外科
泌尿器科（腎臟膀胱尿道）
花柳病科
皮膚科
白土外科醫院
平町鎌田　電二七九
（入院隨意）
（看護婦募集）

第一品質
電話二六八番
平牛乳舍
平町・九品寺前

毎度有難う存じます
レストラント
平商舘

專門
耳鼻咽喉科
高柳耳鼻咽喉科醫院
平町驛前（電三三六）
醫學博士　高柳博明
（入院應需　自炊ノ便アリ）

產科
婦人科
花柳病科
午前宅診
午後往診
入院應需
井坂醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

吸入用酸素　純度99%
度量衡
モノサシ　マス　ハカリ
計量器
体溫器　寒暖計
◎秤ノ取緖・垂糸・修覆致シマス
關內藥局
電話四〇番

◈內臟外科
◈外科一般
◈花柳病科
入院隨意　自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡（電話四七五番）
安齊外科醫院

小兒科
志賀醫院
平町南町五〇番地
電話一六二番
（入院應需）

耳鼻咽喉科專門
平町田町（電六九一）
山內醫院
醫學士　山內亨吉
病室完備　自炊ノ便アリ

磐城代表的の土產品
山。靈峰羊羹　里。柿羊羹
海。のり羊羹　各一本金十錢
右美麗三本箱入　特價三十錢
御旅のお出入に便宜な手頃のお土產品です
小賣御希望の方お申越下さい。
製造發賣元
小川郷驛前
平屋賣店

夜間診療
胃腸病　性病
內科　胃腸病科
花柳病科　性病科　皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電一〇七番）

貸切り
專門優良車
乘心地の超特快適な三四年型デラックスセダン着
何卒御用命願ひます
平町四丁目
鈴木自動車部
電話二一七番

高久病院
平町田町（電話五三一番）
內科　小兒科
外科　花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽濟
藥劑士　佐竹菊雄

五十錢値上の要求に

鐵道では前年据置を主張か

强腰を豫想さるゝ供給側

恒例納炭折衝

明年度鐵道省用炭の購入については目下事務當局において數量購買價格等につき調査中で、來る二十日頃からいよ〳〵業者側と折衝を開始する運びと見られてゐるが、大手筋の販賣、統制機關たる昭和石炭では前年度價格に對し平均五十錢程度の値上を主張してゐると傳へられてをり、鐵道當局では省用炭の購入價格が國內の石炭市價を決定する實情に鑑み、消費者側の立物も考慮して到底大巾な値上に應ずる模樣なく、炭價は前年度据置を主張する模樣であり、供給側では之れが價格は或る程度迄炭鑛景氣を支配する重大な關係を有するのでわけも無く弱腰に終始する樣な事はあるまいと觀られてゐる、但し海運賃の値上は多少事情を異にするものと見られ、從つて鐵道省側は坑所渡は前年通り場所渡はそれ〴〵海運賃の値上りだけの値上を認むるといふ方針で五十錢値上を主張する業者側との折衝には今後なほ波瀾があるものと見られてゐる、因に明年の省用數量は約三百七十萬噸中粉炭二十一萬炭他に撫順炭二十五萬噸程度である

石炭發送高激減

舊正三日の休業が因で

悲觀材料とはならぬ

地方の炭界は各得意先が從來の最盛季より持ち越されたる過剩品を利用する等の關係から漸次需要季を遠ざからんとしつゝあるが去る一日以降十日迄の發送高は營業用—三、六八四車四四、九五〇瓲　省用—一、六〇六車一九、五二七瓲　合計—五、二九〇車六四、四七七瓲で前年同期から觀ると、微弱乍ら增送の一途を辿つて居た從來の大勢に逆行し營業用—六七五車八、二三八瓲　省用—三四五車五、一六九瓲　合計一、〇二〇車一三、四〇七瓲の激減を示してゐるが、右は前年二月中旬であつた舊正月休み三日間が今年は過ぐる四五六日に相當した爲で發送量の前途を卜知するの悲觀材料でない事勿論である

卒業式前早くも

全部賣切れか

就職難知らぬ平商生

『就職戰線異狀』の當世にあつて校長以下全職員が懸命にその卒業後の進路を安定して呉れる所から喜ばれてゐる平商業校は例年殘るなきの賣行きを示してゐるが今年もその後の採用申込には木德商店、イタニックバイプ會社、渡邊久雄製作所、星製藥、三井生命、安田信託、古河電氣工業、日立製作所、水戸鐵道運輸事務所、七十七銀行、郡山佐藤商店等から、地元では昭和人絹會社の大量申込みを始め小野商店（小名濱）百澤商店阿部商店（平）等あり、卒業生六十五名中家業從事二十名、進學六名を除き確定せるもの左の如く個人關係から略々確定せるものも多數あり、卒業式當日以前に全部確定の好成績を擧げるものと觀られてゐる

エンパイヤ自動車商會、木下商店、日本晝夜銀行、（以上東京）滿洲中央銀行（新京）原町紡績（原町）磐城炭鑛、大日本炭鑛、植田水電、湯本無盡

祈年祭

縣社飯野八幡神社では明後十七日祈年祭を行ふと、又平町各小學校では當日が神宮祈年祭に當り國旗揭揚式を行ふと

醫藥分業絕對反對强調

全國大會から歸つて

松村院長は語る

醫藥分業絕對反對を唱へ、全國醫師大會に出席した石城郡醫師會代表平町松村鐵郞、新妻幸之助兩氏は何れも所期の運動に參加し此程歸町したが、大會の模樣に就て松村氏は語る

日本全國醫師大會は去る十二日上野精養軒に於て開催されました會場は非常な盛況を極めました、出席醫師約四千名餘、會長北島多一氏開會の挨拶に次で政友會總務並に民政黨總務國民同盟代表諸士の醫師會側に最も有益なる演說があり、衆議院議員一松定吉氏外十數氏の熱誠なる演說がありまして會場は極めて緊張眞劍味を帶びて居ました。又各地方より實行委員を擧げて內務大臣並に各黨總裁總務及代議士等を訪問し、我が全國醫師大會の趣意及決議宣言書を提出し醫業報國の〻誠を披瀝致しました處、大体の空氣を窺ひますと今回議會へ提出せられんとしつゝある藥劑師法中改正法律案（所謂醫藥强制分業法）は國民の保健衞生を蠹毒すること甚大にして且つ我國情に適せざることと明瞭なるのみならず、現在の醫業法案制度が最も國情に適するを以て徒に是を改正するの必要は少しも認めないと云ふ意見が何れも一致して居ることと今回提出せんとした醫藥分業案に贊成する代議士が提出規定の定數に達しない所から見ても第六十七議會には斷然上程されないことは明かであると思ひます

藥劑師側代表もあす大擧上京

昨夜の役員會で陣容整備

右に對し日本藥劑師協會でも全國二萬六千餘名の關係者が一丸となり生活脅威を標榜し猛烈なる實現運動を續けて來たが、愈々明十六日上野自治會舘に全國關係者約六千名を動員し業權確立の全國藥劑師大會を開催する事になつたので石城藥劑師會でも昨十四日夜會長二丁目鈴木堅助氏宅に緊急役員會を開き種々協議した結果該大會の出席者として山野邊東次郞、瀨尾善之進、堀功、水野清一の四氏を選任、四倉、湯本小名濱、植田の代表者十餘名と共に明十六日平發午前七時二分の急行で大擧上京する事になつた

前年から二千口も

一六銀行利用增加

市內五軒の出入高

平町役場調査昨年中に於ける市內五質屋の總貸出高は二七、二六六口九三、四〇二圓（戾高）二三、九三二口八二、九七二圓（流出高）一、三七五口四、三二三圓で同年末現在貸出高は一二一五七〇口四四、五五八圓で前年末に比し二、〇〇〇口約六、〇〇〇圓の激增を示した

白水阿彌陀堂の第二回修理

本堂宇の特別保護建造物並に內壇安置五佛像國寶各指定に就て（四）

鄉土の史的時事解說（二）

勿來生

又仙北郡角館、彌勒寺の堂下に、武ひら、家ひらの首が埋藏すると、今に傳說するが本當であらうか。斯くて武ひらは岩城郡の地を失つた上に義家に誅滅された。畢竟此の役は眞衡の驕慢夫れ自身が招ぎ、養子夫婦を殘し、武則以來三代の名跡を滅ぼすに至つた。是れを要するに、當役は清原、亘、吉彥等の親類間の爭鬪で、其處に義家が陸奧守たる責任上之が鎭靜に力めて前後二ヶ年を費し平定した。故に義家は之の戰勝を奏上したところ、朝廷は却つて清原一族の私鬪と見做し、乃ち義家以下の將士を賞しなかつたと云ふ。果して朝廷の目せらるゝ所是れに相違なかつたとせば其の原因と結果は寧ろ眞實に近かつたのを頷くであらう。然らば其の後に於ける成衡（生死の何れかは暫く措いて）德子は何うなつたらうか。乃至清衡、秀武等の存在は亦何うなつたか、是れ最も興味ある必然に起きる對照的疑問である

一三、其役後に於ける成衡夫妻の生死、地位、境遇如何

清原眞衡が後三年役を自取して之に滅亡したから、其の所領は當然成衡が承ける身分なるに拘はらず、既に清衡、家衡の異父兄弟が義家より之を分與され、次いで家衡が兄に反するや、彼れが領有せる三郡もまた清衡に歸し、茲に清原家の經濟的勢力、族長的名跡は悉く彼れに全握された

然らば一度び清原家の養子夫婦になつた成衡、德子は其後何うなつたらうか。而して又義家の義弟に當る成衡は、何故に義家の擁護を受けて、清原家を繼がなかつたらうか。或は其の遺領の一部を與へられなかつたか、是れ大いに考察に値ひする問題であらう

初め義家は清衡、家ひらに三郡づゝ與へ、次ぎに清ひらが六郡を獨得したほどであるから、成ひらには養父急死後、苟しくも義家の妹夫たる者故、何等かの地位は保持したこと無論であらうが、但だ何かの事情が生じ、又自發的にか義家の差圖に因り、眞ひらの死するや彼れ夫婦は清原家と離れて獨立し、平姓に復したらしい。孰れにあつても其の際、二人りの經濟根據は失はずに濟んだであらう

自動車組合役員會

愈々來四月平町八幡小路元磐中グラウンドに設置される事になつた自動車檢查場工事請負に關し、平、植田、四倉、富岡四署管內自動車支部では明十六日平署會議室に役員會を開き種々協議する事になつたと

逃げた女房は平町に

よりを戾さぬので

從順な夫から說諭願

双葉郡久之濱町本町九飲食店榎本劍太郞（五二）內緣の妻來栖キミ（三八）は大正十一年來同棲してゐたが最近夫婦仲が惡く舊臘夫の出稼ぎ中生命保險掛金に當てるべき現金七圓五十錢を猫ばゝし去月廿日夜夫が同町築港工事に出役留守中家具類を持つて行方を晦まし平町南町大和屋飲食店に潛伏中なるを夫が嗅ぎ出し綯りを戾さんとしたが一向取り合はぬので何人かかくまつてゐるらしいからと今十五日劍太郞から平署に說諭方を願ひ出た

櫻季の陽氣

◇水ぬるむ昨今

『冬來りなば春遠からじ！』英國の浪漫詩人シェリーは言つた、が今年の春（？）は餘りに早い。茲兩三日の暖かさ、さらりとした爽快味は櫻咲く頃の樣。アスファルトの鋪道から間口一杯にさし込む春の陽に電氣蓄音機も今は性急な焦燥を置き忘れ、三人連れの子守はくつきり影を落し何やら樂しげに笑みつゝ歩むが背中の子供は何れもグッスリ寢込んでた。折柄だるま市か二丁目北側に陳べられただるまさん達はのけぞり返つて春の陽を滿喫して居た本町通りには氣の早い春ショールの娘さんが三人ほど見受けられた。

。。。。磐中摸擬試驗　磐城中學四五年生の進學志望者中には旣に試驗を了しその發表を待つて居るものも少くないが近く再び各科一齊に摸擬試驗を行ふと

谷氏講演會

貨殖理論家

十三日會主催で

來る十七日の十三日會例會は午後七時より平第三小學校講堂に開催されるが今回は從來の例を破り平商工會同青年團と聯合し多年商工會の希望であつた貨殖理論家の第一人者谷孫六氏を招聘する事に決定したが多數出席者を求むるため之亦同會としては型破りのポスター三十枚、チラシ三千枚を作製大いに宣傳すると

鐵橋にブラ下つて危い命を取り止む

錦村の列車妨害青年

錦村大字大倉宮內茂三郞（三三）は十四日午前七時二十分ごろ常磐線植田、勿來間第一鮫川鐵橋上を通行中背後から下り二二五列車が驀進して來たので窮餘の一策枕木にぶら下がつて危機一髮避難したが機關手志賀二郞君は轢き殺してしまつたものと思ひ約二十米行過ぎて急停車し青くなつてゐた同人を救助した、同列車はこれがため二分間遲延し報告を受けた植田驛長は列車妨害で告發の手續きをとつた

。。。。小野書記叙勳　平區裁判所監督書記小野榮一氏は昨十四日付勳八等に叙され瑞寶章を授けられた

。。。。三中等校長出福　磐中小檜山、磐女正木、平商矢野三校長は今十五日午前十一時より縣女子師範校に開催の縣下中等校長協議會並びに明十六日同男子師範校に開催の中等校体育聯盟理事會に出席のため出福した

局員健康調查

仙台遞信局では管內一二等局從業員全部の健康狀態を精查し勤務時間、設備等の參考にする筈であつたが今十五日から四日間に亘り平局でも高久囑託醫外數名により執行する

。。。。凶作防止委員會　縣主催凶作防止實行委員會は來る二十、二十一の兩日平縣事務所樓上に開く

。。。。料藝聯合新年會　平料理屋、藝妓屋兩組合合同新年宴會は今十五日夜住吉屋本店で

。。。。植田管內組頭會　今十五日開き春季檢閱其他を協議

。。。。町有地占有協議　平町土木委員會は來る十九日午前十時から町有地占有に關し協議する

。。。。草野校養兎獎勵　草野小學校では兒童の副業觀念を涵養するため四年以上希望兒童に對し家庭に於ける養兎を獎勵してゐるが、近く校內の一部に養兎場を設け農林省から優秀種の分讓を受け兒童をして增殖配布する事になつたと

。。。。女青幹部講習會　郡聯合女子青年團では來月六日の地久節を卜し幹部講習會を開き『非常時女性の覺悟』を强調し會後一萬遍講演行脚の二瓶一次氏の講演を聽くと

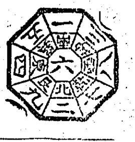
。。。。平局檢查一行　仙臺遞信局石川書記外二名は昨十四日より三日間に亘り平局の經理事務檢查を行ふが、尙は同局では今十五日より四日間に亘り局員全部の特別健康診斷を行ふ

。。。。傳染病發生一束　平町仲町四田中嶺男（二）はヂフテリア、同町七丁目六芳賀沼ヨシヱ（一六）は腸チブスと決定した

。。。。豚丹毒豫注　平町では今十五日より三日間豚丹毒豫防注射を行ふ

。。。。手早い時計泥　四倉町字仲町神谷時計店に昨十四日午前十時頃二十四、五才の男が來り時計を買ふとて主人不在のため妻女が品物を並べてゐるうち隙を窺つてクローム十形腕時計一個（價格十四圓）を窃取逃走、屆出でにより四倉署で犯人搜查中

。。。。家出の伜搜索願　山形縣南村山郡山元村大字小白府一九七佐藤藤三郞（三）は去る一月無斷家出したが郡內で自動車助手でもして居る形跡あり今十五日實母サ〻より平署に搜索願



舊一月十三日
土曜　癸亥　先勝　收　女宿
新二月十六日

諸判定應需
東京市本鄉區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神宮館

▲一白の人　多少の支障はありとも共に屈せず進むべし▲二黑の人　人の爲めに勞を採れば共德後日に戾り來る▲三碧の人　焦るときは手中の寶も失ふことあり注意日▲四綠の人　考廢委徵の風に捕はれぬ樣に自奮すべき日▲五黃の人　圓滿主義を以てすれば何事も都合よく運ぶ▲六白の人　氣移りの仕安き日新しき事は凡て見合すべし▲七赤の人　小さく企てし事も生涯の基礎となるべき日▲八白の人　外に施せるよりも內に多くの財貨の集る日▲九紫の人　心落付かず爲す事多くは失敗に陷り易し

十六日
（小名濱測候所調查）
日出　六、二四　月出後　三、一九
日沒　五、一九　月沒前　四、五九
滿潮　前四、四五　後二、三五
干潮　前九、四五　後一〇、〇五

內科
川井內科診療所
平南町（電二四三）
川井安子

一月星豆炭
一八キロ一袋
金八十錢
平驛前
阿部石炭商店
電話三七番

父目崎恒男昨十三日午後〇時三十分急病ニテ死去致候間此段御通知ニ代ヘ謹告仕候
追テ二月十六日午後一時ヨリ二時迄築地西本願寺ニ於テ告別式相營ミ可申候
昭和拾年二月拾四日
東京市淀橋區下落合一ノ四一四
男　鑛太
親戚　目崎忠之
高橋善一
鈴木清秀
友人　岩崎清七
木村清治

當社取締役工務部長目崎恒男殿昨十三日午後〇時三十分死去致サレ候間此段謹告仕候
昭和拾年二月拾四日
磐城セメント株式會社

父堀江工業株式會社取締役社長江口忠一儀去月三十一日突然發病藥石効無ク二日午前八時五十分死去致シ候間此段御通知申上候
追テ過日不取敢茶毘ニ附シ十九日午後二時長橋町性源寺ニ於テ佛式ニテ葬儀相營ミ候
二月十四日
平町搖槌小路
男　軍二
親戚總代　江口清
堀江定一
堀江工業株式會社代表　鈴木唯治